

特別展担当の学芸員、山田さんに聞く

多賀城市の東北歴史博物館で開催中の特別展「世界遺産 縄文」を見学した中学生記者10人は、平和な暮らしが1万年も続いた縄文時代と学芸員の仕事に興味津々です。同展を手掛けた同館学芸員の山田凛太郎さんにインタビューしました。

(1面に関連記事)

— 縄文時代の暮らし方を今の世の中にどう生かせると思いますか。

「今の私たちは自然との距離が遠い。当時の暮らしを知り、自然との付き合いを考え直すきっかけにしてほしいです」

— 展示品はどう集めたのですか。

「所蔵する機関にお願いして、一つ一つ資料を実際に見て、調査します。約3年かけて準備しました」

— 展示方法にはどんな工夫をしましたか。

「イラストのパネルを作ったり、土偶のレプリカを作って実際に触れるコーナーを作ったりして、より縄文を身近に感じられるようにしました」

見て触れて
縄文身近に

展示会の苦勞を知る

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」や縄文時代の面白さを感じると同時に、一つの展示会を作り上げる過程や、その大変さを知りました。展示にはさまざまな工夫があり、3年前から準備していたことに、とても驚きました。

宮城教育大付属中
安本 遼さん

交流方法の謎解けた

縄文人が遠くの集落の人たちとどう交流していたのか、不思議に思っていました。狩りをしていて行動範囲が広く、出会った人の集落と交流していたと考えられると知り、謎が解けました。ますます縄文時代への興味が湧きました。

宮城教育大付属中
渡辺明依さん

精巧な技術に驚いた

大型の板状土偶が印象に残りました。口から足にかけて長い穴が空いていて、ここまで精巧に制作できる技術に驚きました。縄文人は野蛮と思い込んでいました。高い技術力と、現代人と同じような感性を持っていたと分かりました。

仙台青陵中等教育学校
田中瑞己さん

平面的な土偶は新鮮

土偶は立体的なイメージがあったので、平面的で手足がほぼ省略された板状土偶は新鮮でした。自然と調和した暮らしにより1万年以上も平和が続いた点は、現代に生かせると思います。持続可能な社会のため、自然を大切にしたい。

仙台青陵中等教育学校
本美芽紗さん

現代社会の礎になる

縄文人は、自然の恵みを無駄なく活用していました。発掘された土偶などから、豊作や子孫繁栄を願い、儀式をしていたことが分かりました。縄文人の暮らしや思想は、現代に求められるサステイナブルな社会の礎になると思います。

桃生中
亀山真緒里さん

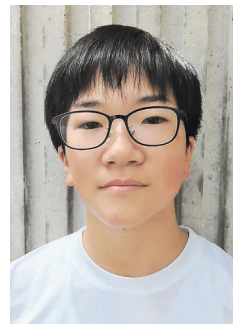
国宝見られ、うれしい

教科書では詳しく習わなかったことをたくさん知りました。家族、ムラの構成や言語があって交流が発達していたことまで、出土品から分かるということに、とても驚きました。国宝の土偶を実際に見ることができてうれしかったです。

桃生中
高橋真美さん

生活の工夫に気付く

印象に残ったのは、土偶と縄文人の暮らしです。土偶は独特な形をしていて、縄文人がいろいろなお祈りをしていたことが分かりました。たて穴式住居の構造や漆塗りの皿から、暮らしやすくなる工夫をしていたことに気付きました。

南方中
高橋 渚さん

変わらぬ思いを理解

土偶は何種類もあり、生命の誕生や豊穡への祈りが込められていました。今も昔も変わらず、人は周りの人との関係や思いを大切にしていたと分かりました。貝塚から当時の生活を知ることができると知り、とても興味が湧きました。

南方中
高橋悠清さん

近くの遺跡 足運んだ

貴重な縄文遺跡が自宅のそばにあると分かり、実際に見に行きました。1万年も前にここで人々が生活していたことが信じられませんでした。縄文時代にも地震や津波があったそうです。今と違い情報がない中、大変だったと思います。

女川中
阿部寛大さん

危機超えるヒントに

戦争などで毎日多くの命が奪われ、開発による環境破壊でたくさんの動植物が絶滅の危機にさらされている今の世の中。それを変えるためのヒントが、自然の恵みを上手に利用し平和に暮らした縄文人の営みにあると思いました。

松島中
田多野莉乃さん

中学生記者10人、取材を終えて